

平成30年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名		社会教育関係各種負担金	担当課	生涯学習課
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち	計画期間	年度～
	施策	生涯学習の推進	種別	任意的事務
	基本事業	自主的なサークル活動の支援と学習機会・場の提供	市民協働	
予算科目コード	01-100401-03 単独	根拠法令・条例等	社会教育法	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか） 県社会教育振興協議会，北相馬地区社会教育振興協議会，県社会教育主事会の各負担金の支出事務
県及び地域における社会教育・生涯学習の推進を目的に，県社会教育振興協議会，北相馬地区社会教育振興協議会，県社会教育主事会が組織された。	
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
県及び北相馬地区の社会教育の振興と社会教育担当者，社会教育指導員及び社会教育委員の資質の向上	
（参考）基本事業の目指す姿	
市民が，生涯学習に自発的に参加できるよう，学習できる機会・場の提供に努める。	

事業の課題認識，改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点，現状分析，課題設定）	具体的内容とスケジュール
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☒ 維持 ☐ 削減	

H29年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H30年度の振り返り）	
H29年度の評価（課題）	H30年度の実績（評価、課題への対応）

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H29年度	H30年度	R01年度	目標値（R03）
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
成果の動向（→その理由）					
☐ 向上 ☒ 横ばい ☐ 低下					
今後の事業の方向性（→その理由）					
☐ 拡大 ☐ 縮小 ☒ 維持 ☐ 改善・効率化 ☐ 統合 ☐ 廃止・終了					

コストの推移						
項目		H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R01年度予算	R02年度見込
事業費	計	94	95	93	115	115
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	94	95	93	115	115
正職員人工数（時間数）		10.00	0.00	22.00	0.00	0.00
正職員人件費		41	0	92	0	0
トータルコスト		135	95	185	115	115

平成30年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報					
事務事業名		社会教育委員の会議開催事業		担当課	生涯学習課
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち		計画期間	昭和31年度～
	施策	生涯学習の推進		種別	法定事務
	基本事業	自主的なサークル活動の支援と学習機会・場の提供		市民協働	企画立案への参画
予算科目コード		01-100401-04 単独	根拠法令・条例等	社会教育法 守谷市社会教育委員に関する条例	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
社会教育法第15条に基づき、社会教育行政に広く各方面の良識と経験を反映させるために昭和31年度に設置した。	学校教育関係者や社会教育関係者、学識経験者、家庭教育の向上に資する活動を行う方及び公募市民で構成した社会教育委員の優れた知見、知識や経験を社会教育行政に反映させ、市民の社会教育活動の活性化、学校・地域・家庭の連携協力における社会教育の推進を図る。 会議等の開催時には、出席委員に報酬及び費用弁償を支払う。 ＜主な議案・協議事項＞ ・社会教育関係事業及び予算について ・放課後子ども総合プランの充実と在り方について ＜主な研修等＞ ・市民ボランティアによる緑化保存（多世代交流） ・守谷市の放課後子ども総合プラン（学校・地域・家庭の連携）
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
社会教育に関する計画の立案等を協議し、教育委員会に助言するとともに、社会教育の諸問題について課題を解決し、市民の社会教育活動の活性化につなげる。	
（参考）基本事業の目指す姿	
市民が、生涯学習に自発的に参加できるよう、学習できる機会・場の提供に努める。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
社会教育について、全体的な視点から事業内容を見て助言や提言を行う。	県の社会教育関連の研修に参加するなど、委員の研修を行う。
改善内容(課題解決に向けた解決策)	
助言や提言を行うためには、事業内容を十分把握するとともに他市町村の状況等を知ってもらう必要があることから、視察研修を実施する。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☒ 維持 ☐ 削減	委員が県の研修に参加するための報酬や費用弁償であり削減はできない。

H29年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H30年度の振り返り）	
H29年度の評価（課題）	H30年度の取組（評価、課題への対応）
外部評価を受け、社会教育委員の視点で、放課後子ども総合プランの充実とあり方について話し合い、提言書をまとめた。 また、近隣市町村と合同研修を行い、意見交換を行ったことにより、事業の趣旨・内容や現状を確認することができた。	今年度は他市町村との合同研修会を中心に実施した。 それにより、昨年以上の見聞を高めることができ、次年度以降への新たな取り組みについても見いだすことができた。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H29年度	H30年度	R01年度	目標値（R03）
会議の開催回数（全体会議・研修会等）（回）	5.00	5.00	3.00	5.00	5.00
提案・提言件数（件）	0.00	1.00	0.00	1.00	1.00
成果の動向（→その理由）					
☐ 向上 ☒ 横ばい ☐ 低下	年数回の会議では市の情報提供に関する協議になってしまうために、もう少し小委員会などにしてテーマを模索していく必要があるかと思われる。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
☐ 拡大 ☐ 縮小 ☐ 維持	☒ 改善・効率化 ☐ 統合 ☐ 廃止・終了	31年3月末で現職委員の任期が終了し新たに委嘱することから始まるため、生涯学習課事業についても最新の情報提供をしていく上で、社会教育委員の視点からいろんな議論を展開してもらえるよう、4半期に1回程度の会議等を開催していく必要がある。			

コストの推移						
項目		H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R01年度予算	R02年度見込
事業費	計	406	365	126	438	438
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	406	365	126	438	438
正職員人工数（時間数）		195.00	155.00	35.00	0.00	0.00
正職員人件費		800	636	146	0	0
トータルコスト		1,206	1,001	272	438	438

平成30年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報					
事務事業名		社会教育指導員事業		担当課	生涯学習課
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち		計画期間	昭和48年度～
	施策	生涯学習の推進		種別	任意の事務
	基本事業	自主的なサークル活動の支援と学習機会・場の提供		市民協働	
予算科目コード		01-100401-05 単独	根拠法令・条例等	守谷市社会教育指導員規則	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
昭和46年社会教育審議会の答申により、社会教育指導体制が弱体であるとし、文科省が47年度以降市町村に配置するようになり、守谷市も昭和48年度から配置に係る補助を受けて社会教育指導員を配置した。平成19年度以降、補助制度は廃止となったが、市独自の施策として社会教育指導員規則を制定し配置している。	社会教育指導員の事業は、家庭教育の推進が主な業務であり、家庭教育を学ぼうとする大人（保護者）に対して学習の機会、子育てに関する悩み等を解消するために家庭教育講座を開催する。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
・社会教育活動の知識や経験のある社会教育指導員を配置し、家庭での子育てに関する悩みの解消、生涯学習・家庭教育に必要な知識、技能を学習してもらう。 ・放課後子ども総合プランがスムーズに運営できるよう推進する。	
（参考）基本事業の目指す姿	
市民が、生涯学習に自発的に参加できるよう、学習できる機会・場の提供に努める。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
・家庭での子育てに関する悩みの解消、生涯学習・家庭教育に必要な知識・技能を学習してもらうために、家庭教育講座・家庭教育講演会を開催しており、参加者の方には概ね好評を得ている。しかし、講座内容によっては参加人数にバラつきがある。 ・様々な分野・視点の企画を計画し、より多くの保護者に参加してもらえるよう講座の内容を工夫する必要がある。 ・年に1回、家庭教育講演会開催時には、未就学児がいる参加者が参加しやすい環境を整えるため、保育ルームを開設している。平成30年度には、10名の利用希望者があった。	11月17日（土）家庭教育講演会 講師 陳 央仁氏 「いのち、それは奇跡 君は愛されるため生まれた」 12月18日（火）家庭教育講座 講師 石塚浩子氏 「幼児期の子育て しつくと笑顔」 1月24日（木）家庭教育講座 講師 山口良輔氏 「個性を考える 子どもを育む」 2月 家庭教育体験談募集 社会教育指導員 「家庭における守谷しぐさ」取りまとめ 3月16日（土）家庭教育講座 講師 社会教育指導員 「思春期における親の対応」
改善内容（課題解決に向けた解決策）	次年度 5月中旬以降から月1回程度、家庭教育講座を実施予定
・現在1回当たりの謝礼として7,000円（交通費込み）で実施しているが、遠方の講師に依頼することがあるため講師謝金の増額を実施する。それによって更に講座内容の幅が広がり、より多くの保護者の要望に応えることができる。 ・講座の案内通知の内容・レイアウトを更に工夫し、保護者の目にとまりやすく、興味関心を持って参加してもらえるようにする。 ・家庭教育講演会の参加環境を整えるため、保育ルームの定員上限10名の体制にする。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☒ 維持 ☐ 削減	講師謝金については、近隣市町村の1回当たりの謝金の相場（取手市・利根町8,000円、つくば市7,000円）であるため、来年度は見直しをし、1回当たり8,000円で実施したい。なお、謝金が発生しない社会教育指導員等を講座の講師として実施することは継続していく。

H29年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H30年度の振り返り）	
H29年度の評価（課題）	H30年度の実績（評価、課題への対応）
土曜日に講座を開催するなど保護者が参加しやすい事業の実施に努めたが、それでも、参加者（保護者）が集まらないといった課題を見出すことができた。来年度以降の講座事業実施の際に検討する必要がある。	様々な工夫により参加者数の増加が顕著で、各企画とも好評であった。講座案内対象施設を1か所（保育園）増やした。講座内容に変化をもたせ、性教育、絵手紙作成、科学実験等も入れた。案内文書にイラストを入れ文字数を減らすなど工夫し見やすくしたこと等が功を奏したと思われる。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H29年度	H30年度	R01年度	目標値（R03）
家庭教育講座開催数（回）	6.00	11.00	11.00	11.00	11.00
家庭教育講座参加者数（人）	189.00	344.00	511.00	520.00	530.00
成果の動向（→その理由）					
■ 向上 □ 横ばい □ 低下	家庭教育講座は、家庭教育を学ぼうとする保護者に対して、学習の機会、子育てに関する悩みなどの解消の一助になる支援になるように実施している。参加者数の増加が顕著で、しかも参加者から大変好評であり、成果が見られた。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
□ 拡大 □ 縮小 ■ 維持	□ 改善・効率化 □ 統合 □ 廃止・終了	家庭教育事業の推進のために、次年度も講師選びの際の工夫や講師謝金の値上げにより、保護者に興味を持ってもらえる講座を提供するとともに、案内文書が見やすく分かりやすく目を引くようなものになるよう工夫する。			

コストの推移						
項目		H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R01年度予算	R02年度見込
事業費	計	2,590	2,574	2,619	2,656	2,656
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	2,590	2,574	2,619	2,656	2,656
正職員人工数（時間数）		53.00	72.00	77.00	0.00	0.00
正職員人件費		217	295	321	0	0
トータルコスト		2,807	2,869	2,940	2,656	2,656

平成30年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報					
事務事業名		市PTA連絡協議会支援事業		担当課	生涯学習課
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち		計画期間	昭和30年度～
	施策	生涯学習の推進		種別	任意の事務
	基本事業	自主的なサークル活動の支援と学習機会・場の提供		市民協働	補助事業
予算科目コード		01-100401-09 単独	根拠法令・条例等		

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
各学校間のPTAの連携を図るために、昭和30年代にPTA連絡協議会活動が開始された。	定例会、研修会、校外指導等を行うに当たり補助を行う。指導者研修会は、PTA活動に関する課題解決や子育てに必要なスキル向上等、保護者のニーズを考慮した講演会を開催し、指導者の育成を図る。 平成28年度活動内容 ・校外指導及び巡視 ・定例会 ・PTA指導者研修会 ・PTA親睦球技大会 ・児童、生徒の見守り活動「753運動」の実施
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
研修会等を開催し、教育効果の向上と学校と家庭の連携を図る。	
（参考）基本事業の目指す姿	
市民が、生涯学習に自発的に参加できるよう、学習できる機会・場の提供に努める。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
スマートフォンの普及などにより、子どもたちが接する情報が膨大になってきている。学校、地域、家庭が連携協力して、子ども達が健全に育つ環境づくりに努める必要がある。	通年 PTA活動への情報提供及び支援
改善内容(課題解決に向けた解決策)	
子どもを取り巻く環境の変化に対応できるよう保護者にも情報の提供を行っていく。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☒ 維持 ☐ 削減	必要最低限の予算であり削減の余地はない。

H29年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H30年度の振り返り）	
H29年度の評価（課題）	H30年度の実績（評価、課題への対応）

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H29年度	H30年度	R01年度	目標値（R03）
定例会，研修会，校外指導の実施数（回）	23.00	23.00	23.00	0.00	23.00
参加した会員数（人）	500.00	660.00	700.00	0.00	780.00
成果の動向（→その理由）					
☐ 向上 ☒ 横ばい ☐ 低下					
今後の事業の方向性（→その理由）					
☐ 拡大 ☐ 縮小 ☒ 維持 ☐ 改善・効率化 ☐ 統合 ☐ 廃止・終了					

コストの推移						
項目		H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R01年度予算	R02年度見込
事業費	計	154	154	107	154	154
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	154	154	107	154	154
正職員人工数（時間数）		0.00	0.00	5.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	0	21	0	0
トータルコスト		154	154	128	154	154

平成30年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報					
事務事業名		タベのコンサート事業		担当課	生涯学習課
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち		計画期間	平成 8年度～
	施策	生涯学習の推進		種別	任意の事務
	基本事業	自主的なサークル活動の支援と学習機会・場の提供		市民協働	実行委員会
予算科目コード		01-100401-10 単独	根拠法令・条例等		

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
平成8年当時、転入者が多く、まちに馴染みのない住民が多くいることから、町長から庁舎を活用したイベントの開催が提案され、市役所各課からアイデアを募集したところ、中庭やロビーを活用したコンサートの開催が採用された。	8月の土曜日の夕方（18時からおおむね21時）に、合計3回コンサートを開催する。舞台の設営や音響・照明は業者に委託するが、当日の受付や舞台配置などは、出演サークルが当番で行っている。 また、市内在住や市出身などのプロが、各回1組出演する。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
夏のタベに誰もが気軽に楽しむことができる音楽会を開催して、市民の音楽活動への関心と出演者の意欲向上を図る。 市役所の中庭や庁舎ホールを開放することで、市役所を身近に感じ、愛着を持ってもらう。	
（参考）基本事業の目指す姿	
市民が、生涯学習に自発的に参加できるよう、学習できる機会・場の提供に努める。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
例年出演団体に変化がないため、新たな若い世代の団体の出演を増やす必要がある。 また、人気のあるプロ出演者の選択、タベのコンサートの広報の仕方を検討し、観客の増員を図る必要がある。	2月上旬 第1回運営委員会 4月上旬 参加団体募集 5月上旬 ステージ作成業者入札 6月上旬 第2回運営委員会 7月中旬 実行委員会 実施予定日（3回） 8月4日 中庭 8月18日 庁舎内ロビー 8月25日 中庭及び庁舎内ロビー 11月上旬 反省会
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
新たな出演団体について、守谷高校、協賛の企業に参加依頼の通知を送付する。 広報紙、市ホームページに掲載し、幅広く市民に知らせ、出演団体、観客の増員を図る。 また、近隣市町村へもポスター掲示を依頼する。 今回のアンケートに基づき、好評のプロの出演を依頼する。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☒ 維持 ☐ 削減	音楽を気軽に楽しめるコンサートとして定着し、楽しみにしている市民も多いことから、来年度も観客動員数を維持、増員するためにも、司会者、プロ主演者謝金、屋外舞台設置委託料が必要である。

H29年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H30年度の振り返り）	
H29年度の評価（課題）	H30年度 of 取組（評価、課題への対応）
前年度より、来場者の人数は多少減ったが、音楽を気軽に楽しめるコンサートとして毎年、楽しみにしている来場者も多い。	広報紙等で市内音楽サークル等出演団体の募集を行った。 さまざまなジャンルの音楽や幅広い年代の音楽を提供するため、市内企業や守谷高校、市外のバンド等に出演の呼びかけを行った。 市文化協会の有識者が中心となる運営委員会でプロ出演者を決定し、サークル発表のほか、各回の最終プログラムで本格的な音楽に触れる機会を提供した。 出演団体による実行委員会を組織し、各回の運営を行った。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H29年度	H30年度	R01年度	目標値（R03）
出演団体数（組）	17.00	18.00	15.00	14.00	16.00
来場者数（人）	844.00	676.00	588.00	750.00	750.00
成果の動向（→その理由）					
☐ 向上 ☒ 横ばい ☐ 低下	出演団体数、来場者数ともに、前年と比較して減少したが、ここ数年、猛暑や急な雷雨等の異常気象、各地の花火大会や夏祭り等の行事と日程が重複していることが影響していると思われる。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
☐ 拡大 ☐ 縮小 ☒ 維持 ☐ 改善・効率化 ☐ 統合 ☐ 廃止・終了	気軽にさまざまなジャンルの音楽を鑑賞できる場を提供し、守谷市の「夏の風物詩」としてPRし、多くの方に足を運んでもらえるよう工夫する。 市内音楽サークル等に日頃の練習の成果を発表する場を提供する。また、アンケート調査で要望の多かったプロ演奏者や人気のあるジャンルのプロ演奏者に次回出演を依頼する。				

コストの推移						
項目		H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R01年度予算	R02年度見込
事業費	計	1,341	1,299	1,302	1,395	1,395
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	1,299	0	0	0
	一般財源	1,341	0	1,302	1,395	1,395
正職員人工数（時間数）		408.00	549.00	366.00	0.00	0.00
正職員人件費		1,673	2,251	1,528	0	0
トータルコスト		3,014	3,550	2,830	1,395	1,395

平成30年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報					
事務事業名		もりや学びの里施設維持管理事業		担当課	生涯学習課
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち		計画期間	平成 8年度～
	施策	生涯学習の推進		種別	任意的事務
	基本事業	自主的なサークル活動の支援と学習機会・場の提供		市民協働	
予算科目コード		01-100401-11 単独	根拠法令・条例等	もりや学びの里設置及び管理に関する条例	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
旧大井沢小学校の廃校に伴い、その跡地を新たに生涯学習施設として利用することにより、平成8年度に「もりや学びの里」を開設した。	廃校施設を市民の学習施設としてサークル活動、研修等に活用し、より快適な利用に供するため、設備、機械等の管理及び保守点検を実施する。 [主要施設] 体育館/和室/講座研修室/音楽室/調理室/創作工芸室/バーベキュー施設 [主な施設管理業務] 建物清掃/自家用電気設備保安管理/自動ドア保守点検/体育器具点検/消防施設点検/植栽管理/施設管理等
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
世代を超えて利用できるコミュニティ施設として、市民が安全で快適な学習や趣味活動ができる環境を整え、社会教育活動の充実及び推進を図る。	
（参考）基本事業の目指す姿	
市民が、生涯学習に自発的に参加できるよう、学習できる機会・場の提供に努める。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
法定点検で指摘された事項は、都度、改善しなければならない。老朽化に伴う設備不良が毎年発生している。 施設管理業務についてはシルバー人材センターに業務委託しており、電球の球切れ、草木の繁茂等は常に確認され、管理人が整備を行うなどの対応が取られている。	平成30年10月 施設不良箇所調査 ・管理人（シルバー人材センターへ委託）にヒアリング ・現地確認 平成30年11月中旬 次年度修繕計画 平成31年度通年 施設維持管理（修繕含む） 平成31年 8月予定 建物定期調査実施（2年に1回） 平成31年 9月以降 定期調査不良箇所調査・修繕
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
施設・設備の不良箇所を調査・把握し、新年度予算計上時までに修繕の優先順位を付ける。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☒ 増加 ☐ 維持 ☐ 削減	施設の老朽化に伴い、維持管理に係る費用の確保が必須であるため、例年並の修繕費を計上する。

H29年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H30年度の振り返り）	
H29年度の評価（課題）	H30年度 of 取組（評価、課題への対応）
利用者が安心・安全で快適に学習活動ができるよう、適切な施設整備を行う。	施設、設備の不具合による修繕を行った。 [内容] 陶芸窯室コンセント修繕、郷土資料室自動火災報知設備感知器増設、放送設備不調改修、ブロック塀改修、門柱 及びモニュメント撤去、点灯不良照明、体育館収納台車修繕、体育館排煙窓修繕、アーカススタジオカーテン設置 利用者が快適に余暇活動を楽しめるよう屋外用テーブルセットを更新した。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H29年度	H30年度	R01年度	目標値（R03）
延べ利用者数（人）	33,090.00	33,648.00	37,384.00	35,000.00	35,000.00
施設の改善（修繕）件数（件）	8.00	11.00	18.00	8.00	8.00
成果の動向（→その理由）					
☐ 向上 ☒ 横ばい ☐ 低下 陶芸窯や防音設備の整った音楽活動室、体育館、バーベキュー施設など他の施設にはない設備があり、市民の学習、趣味や余暇活動の場として、多くの団体・サークルに活用されている。今後も適切な施設の維持・管理を行い、サークル活動の支援と学習の場の提供を図る。					
今後の事業の方向性（→その理由）					
☐ 拡大 ☐ 縮小 ☒ 維持 ☐ 改善・効率化 ☐ 統合 ☐ 廃止・終了 利用者が安心・安全で快適に学習活動ができるよう、適切な施設整備を行う。					

コストの推移						
項目		H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R01年度予算	R02年度見込
事業費	計	12,495	13,201	17,379	23,395	23,395
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	811	927	5,828	738	738
	一般財源	11,684	12,274	11,551	22,657	22,657
正職員人工数（時間数）		230.00	364.00	673.00	0.00	0.00
正職員人件費		943	1,492	2,810	0	0
トータルコスト		13,438	14,693	20,189	23,395	23,395

平成30年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名		子ども会育成補助事業	担当課	生涯学習課
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち	計画期間	昭和31年度～
	施策	生涯学習の推進	種別	任意の事務
	基本事業	自主的なサークル活動の支援と学習機会・場の提供	市民協働	補助事業
予算科目コード		01-100401-13 補助	根拠法令・条例等	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか） 守谷市子ども会育成連合会が実施する事業のための会場提供，広報掲載，事業参加募集受付，運営補助等の支援及び補助金交付を行う。
子どもの健全育成に効果があると判断され，昭和31年に守谷市（当時守谷町）子ども会育成連合会が結成された。	
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
子ども会活動を通し，子どもたちに集団活動のルールなどを身につけさせることができ，また，育成者（保護者）の関心を高め，「市民による健全育成活動の推進」に貢献する。	
（参考）基本事業の目指す姿	
市民が，生涯学習に自発的に参加できるよう，学習できる機会・場の提供に努める。	

事業の課題認識，改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点，現状分析，課題設定）	具体的内容とスケジュール
・守子連に加入している単位子ども会の数が徐々に減少している。 ・守子連で事業をしても参加者が少ない。	1月20日（日） 親子たこづくり教室・たこあげ大会開催 2月下旬 役員会開催 3月上旬 新単位会長会議・育成者初級講習会開催 次年度 4月上旬 役員会 4月中旬 平成31年度守子連総会 5月中旬 役員会 7月中旬 子ども交流フォーラム 8月中旬 役員会 10月下旬 子ども体験教室
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
・事業を実施する際に，学校を越えて交流できる機会であることを考慮して事業を計画する。 ・子ども達の興味のある内容の事業の開催に努める。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐増加 ☒維持 ☐削減	県子連負担金及び市補助金のため，削減する余地はない。

H29年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H30年度の振り返り）	
H29年度の評価（課題）	H30年度に取り組（評価、課題への対応）
子ども会が成り立たない人数にまで減少している2地区の単位子ども会が守子連から脱会した。 事業内容としても、例年と似た事業が続いており、マンネリ化の傾向がある。	H30年度は、守子連事業初の試みとして、守子連に加入している全世帯を対象に、守子連の運営に関する一斉アンケートを実施した。求められているニーズとして、「宿泊学習事業の再実施と充実」、「web化、ペーパーレス化」、「守子連・各単位子ども会情報の共有」の方針を、臨時の役員会議を開き、固めることができた。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H29年度	H30年度	R01年度	目標値（R03）
守子連登録子ども会数（団体）	35.00	32.00	27.00	28.00	32.00
守子連主催事業数（回）	6.00	6.00	6.00	6.00	6.00
成果の動向（→その理由）					
☐ 向上 ☒ 横ばい ☐ 低下	市ホームページ内の守子連専用ページの作成をし、守子連事業の周知活動を活発に行った。しかし、3月2日に行った単位子ども会役員向けのアンケートでは、ホームページ自体の存在を知らない方が多かったので、周知の強化をする。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
☐ 拡大 ☐ 縮小 ☐ 維持	☒ 改善・効率化 ☐ 統合 ☐ 廃止・終了	加入者のニーズに沿った事業展開を中心として、情報発信の多様化（ホームページの充実や守子連の公式LINEアカウントの運用）と守子連の新事業となる「登山学習と宿泊学習」事業の充実を図る。			

コストの推移						
項目		H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R01年度予算	R02年度見込
事業費	計	234	230	231	231	231
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	234	230	231	231	231
正職員人工数（時間数）		406.00	485.00	231.00	0.00	0.00
正職員人件費		1,665	1,989	964	0	0
トータルコスト		1,899	2,219	1,195	231	231

平成30年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名		成人式事業	担当課	生涯学習課
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち	計画期間	昭和39年度～
	施策	生涯学習の推進	種別	任意の事務
	基本事業	自主的なサークル活動の支援と学習機会・場の提供	市民協働	実行委員会
予算科目コード		01-100401-22 単独	根拠法令・条例等	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか） 新成人者で運営協力委員会を組織して、成人式の運営や準備を行政と協働で進める。 〔実施日〕平成31年1月13日（日）実施 〔該当者〕平成10年4月2日～平成11年4月1日生まれの方 参考：平成30年成人式典 該当者数706人，内出席者数473人
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
（参考）基本事業の目指す姿	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点，現状分析，課題設定）	具体的内容とスケジュール
・式典出席人数が会場となる中央公民館ホールの収容人数を超えており，会場に入りきれない状況となっている。会場移転や複数回に分けての開催など検討が必要。	平成31年成人式典 対象者647人（11月1日現在） 平成31年1月11日（金）会場設営 平成31年1月12日（土）リハーサル 平成31年1月13日（日）成人式
改善内容(課題解決に向けた解決策)	
・今年度から，会場を常総運動公園総合体育館に変更し収容人数の不足に対する解消をはかった。また，守谷駅から送迎バスを運行することにより，参加者に不便をきたさないよう配慮する。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
■増加 □維持 □削減	守谷市を担っていく市民として期待できる若者の成人を祝う大事な式であり，成人式を開催することが目的であるため，事業を維持していく。 会場設営・運営業務，送迎バス運行业務，手話通訳者謝金を計上する。

H29年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H30年度の振り返り）	
H29年度の評価（課題）	H30年度の実績（評価、課題への対応）
運営協力員募集では、運営協力員同士の繋がりでSNSを活用して協力を得ることができた。	新成人による運営委員会を中心に、式典、イベントの2部構成で実施した。 会場を常総運動公園総合体育館に変更し、収容人数に対する課題解決を図った。 守谷駅から送迎バスを運行し、参加者の利便性向上を図った。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H29年度	H30年度	R01年度	目標値（R03）
新成人に対する参加者の割合（％）	70.00	70.85	70.00	70.00	70.00
式典参加者数（人）	473.00	508.00	493.00	510.00	493.00
成果の動向（→その理由）					
☐ 向上 ☒ 横ばい ☐ 低下	新成人の7割が参加している。成果は上がっており、成人式典を開催することが目的であることから、これ以上の成果の余地はない。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
☐ 拡大 ☐ 縮小 ☒ 維持	☐ 改善・効率化 ☐ 統合 ☐ 廃止・終了	守谷市を担っていく市民として期待できる若者の成人を祝う大事な行事として事業を継続していく。 また、会場を変更したことにより御家族が観覧席で参観できるようになったため、今後は多くの方々 が新成人の新たな門出を祝福する記念行事として積極的にPRする。			

コストの推移						
項目		H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R01年度予算	R02年度見込
事業費	計	666	770	1,922	3,050	3,050
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	666	770	1,922	3,050	3,050
正職員人工数（時間数）		368.00	415.00	546.00	0.00	0.00
正職員人件費		1,509	1,702	2,280	0	0
トータルコスト		2,175	2,472	4,202	3,050	3,050

平成30年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報					
事務事業名		公民館運営管理事業		担当課	生涯学習課
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち		計画期間	昭和56年度～
	施策	生涯学習の推進		種別	任意の事務
	基本事業	自主的なサークル活動の支援と学習機会・場の提供		市民協働	
予算科目コード		01-100404-01 単独	根拠法令・条例等	守谷市立公民館の設置及び管理に関する条例	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
市民のコミュニケーション及び生涯学習の場を提供するため開館した。 昭和56年 中央公民館開館 平成4年 郷州公民館開館 平成8年 高野公民館開館 平成11年 北守谷公民館開館	市民サービスの向上を図るために、平成24年度から指定管理者による運営を開始した。 〔指定管理者〕アクティオ株式会社・守谷市シルバー人材センター共同事業体 〔今期指定期間〕平成27年4月1日～令和2年3月31日 5年間 〔指定事業〕各館年間10講座以上、公民館まつり1回 〔自主事業〕指定管理者の自己の責任と費用により、実施することができる事業
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
利用者が安全で快適な学習活動ができる場所を提供する。 指定管理者による管理・運営により、市民ニーズに効果的、効率的に対応し、民間の能力活用とサービス向上を図る。	
（参考）基本事業の目指す姿	
市民が、生涯学習に自発的に参加できるよう、学習できる機会・場の提供に努める。	

事業の課題認識，改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点，現状分析，課題設定）	具体的内容とスケジュール
- 中央公民館の老朽化に伴い大規模修繕が必要 - その他の公民館についても計画的に改修を行う必要がある。	2019. 1月から入札準備，3月工事契約締結 2019年4月から工事着手（中央公民館閉館）
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
中央公民館の改修を実施する。2019年度施工 中央公民館は約1年間閉館，定期利用サークルは，他施設（他の公民館や東板戸井集会所，モリヤガーレなど）に分散して活動してもらう。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐増加 ☒維持 ☐削減	市民に使いやすい公民館にするため，中央公民館改修工事約10億8千万円が必要。 その他の運営管理事業は現状維持

H29年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H30年度の振り返り）	
H29年度の評価（課題）	H30年度の取組（評価、課題への対応）
・各公民館における施設・設備の不良箇所を調査・把握し、新年度予算計上時までに修繕の優先順位を付ける。 ・窓口での使用受付時や公民館まつりの機会に利用者アンケートを行い、次年度6月までに指定管理者に対する評価を行う。	公民館運営協力員会議のほかに、講座検討会議や公民館まつり実行委員会を組織し、地域と公民館のつながりを強化した。 指定管理者との定期的なミーティングを通して、館運営の課題解決や利用者の意見や要望の把握に努めた。 各公民館における施設・設備の不良箇所を計画的に修繕し、機能改善を図った。 施設の長寿命化を図るため、各館のメンテナンスサイクルの実施計画を作成した。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H29年度	H30年度	R01年度	目標値（R03）
延べ利用者数（4館）（人）	203, 184. 00	207, 315. 00	200, 598. 00	130, 243. 00	208, 866. 00
公民館講座に満足している参加者の割合（％）	96. 90	96. 70	96. 10	97. 00	98. 00
成果の動向（→その理由）					
■ 向上 □ 横ばい □ 低下	定期サークル数は増加傾向にあるものの、高齢化による構成員数の減少等により利用者数が減少していることが考えられる。 各公民館の特色を生かした公民館まつりや講座の企画・実行など市民との協働に努めているため、参加者の満足度は高い。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
□ 拡大 □ 縮小 ■ 維持	□ 改善・効率化 □ 統合 □ 廃止・終了	現在の指定管理期間が、令和元年度をもって終了となり、新たに令和2年度から5年間の指定管理者を募集する。 中央公民館改修に伴い他館に移動したサークルや、ホールの代替施設の使用を希望するサークルが円滑に活動できるよう指定管理者と連携・協力して施設利用の調整を図る。			

コストの推移						
項目		H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R01年度予算	R02年度見込
事業費	計	57,351	119,593	119,040	119,859	119,859
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	548	7,967	547	547	547
	一般財源	56,803	111,626	118,493	119,312	119,312
正職員人工数（時間数）		217.00	940.00	410.00	940.00	0.00
正職員人件費		890	3,854	1,712	0	0
トータルコスト		58,241	123,447	120,752	119,859	119,859

平成30年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報					
事務事業名		大野地区公民館運営事業		担当課	生涯学習課
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち		計画期間	昭和33年度～
	施策	生涯学習の推進		種別	任意的事務
	基本事業	自主的なサークル活動の支援と学習機会・場の提供		市民協働	事業協力
予算科目コード		01-100404-07 単独	根拠法令・条例等	守谷市立公民館の設置及び管理に関する条例	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
市民にコミュニケーション及び生涯学習の場を提供するため、昭和33年に大野地区公民館が開館した。	地域住民の生涯学習の場として、公民館運営協力員の協力により、講座・教室・地域のイベントを行う。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
地域住民が生涯学習活動に参加する機会を設け、参加者の学習意欲の向上を図る。	
（参考）基本事業の目指す姿	
市民が、生涯学習に自発的に参加できるよう、学習できる機会・場の提供に努める。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
現在、各生涯学習サークルや地域福祉の活動のために地域住民が定期的に利用している。しかし、建物が古いため、バリアフリーなどに対応できていない部分もある。	今後も地域住民に、コミュニティ・生涯学習の場の提供を行っていく。また、館長及び利用者から施設の不具合などの連絡があれば、その都度対応していく。
改善内容(課題解決に向けた解決策)	
公民館の建物については大規模修繕は行わない方針。（現在の建物が使用できる間利用する）軽微な不具合については、その都度対応する。 講堂で、冬場の活動中に寒さを感じられることから暖房器具を購入する。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☒ 維持 ☐ 削減	運営協力員の運営で行っている事業であり、施設維持管理の経費については最少限の経費を計上しているため削減の余地はない。

H29年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H30年度の振り返り）	
H29年度の評価（課題）	H30年度の実績（評価、課題への対応）
公民館運営協力員企画の講座・教室を計画どおり実施することができた。今後も運営協力委員と連絡を取り合い良好な運営を遂行する。	春のウォーキング、大野ふれあいまつり、さつまいも堀、そば打ち、4つの事業を行った。特にふれあい祭りでは花火等を行い大好評であった。 来年度以降についても、運営協力員会議で検討し、参加者が増員できる事業を考える。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H29年度	H30年度	R01年度	目標値（R03）
開催教室・イベント数（件）	5.00	4.00	4.00	4.00	4.00
参加者数（人）	700.00	680.00	622.00	690.00	700.00
成果の動向（→その理由）					
☐ 向上 ☒ 横ばい ☐ 低下	大野地区に限定した事業展開を行っており、施設の規模や老朽化の問題もあり、これ以上の向上は見込めない。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
☐ 拡大 ☐ 縮小 ☒ 維持	☐ 改善・効率化 ☐ 統合 ☐ 廃止・終了	公民館運営協力員の企画により、参加者の受益者負担での講座・教室の実施を継続する。また、建物の老朽化の問題もあるが、定期利用団体も活発に活動しているので、大規模な改修はしないが、修繕や備品の購入などを行う必要がある。			

コストの推移						
項目		H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R01年度予算	R02年度見込
事業費	計	352	226	285	638	285
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	352	226	285	638	285
正職員人工数（時間数）		290.00	122.00	47.00	0.00	0.00
正職員人件費		1,189	500	196	0	0
トータルコスト		1,541	726	481	638	285

平成30年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名		図書館運営管理事業	担当課	生涯学習課
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち	計画期間	平成 7年度～
	施策	生涯学習の推進	種別	任意的事務
	基本事業	自主的なサークル活動の支援と学習機会・場の提供	市民協働	
予算科目コード	01-100405-01 単独	根拠法令・条例等	守谷市図書館等の設置及び管理に関する条例	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
平成7年5月に守谷中央図書館が開館し、事業を開始した。	市民の様々な学習要求に応えるため、指定管理者制度を導入して市民サービスを向上させるとともに、市民一人当たり500円を目安に図書資料費を確保し、幼児から成人までの市民の要望に応じた幅広い資料の収集に努める。 また、図書館ネットワークを活用した図書の貸出、返却、予約、リクエスト、レファレンスなど質の高いサービスの提供を行う。 〔指定管理者〕図書館流通センター・常総ビル整美共同事業体 〔今期指定期間〕平成28年4月1日～平成31年3月31日 3年間
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
市民の文化教養の向上を目指し、自由で公平な資料提供を中心とする図書館活動により、文化の発展に資する。	
（参考）基本事業の目指す姿	
市民が、生涯学習に自発的に参加できるよう、学習できる機会・場の提供に努める。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
・2019年4月から図書館の運営を直営にするため、移行準備を確実に行う。 ・建設から20年以上経過し、建物の老朽化が進んできている。	毎月 TRCとの定例会議 2月 担当者からの引継ぎ開始 3月末 3日間の臨時休館（業務備品等の入れ替え他）
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
指定管理者と定期的に協議を行う。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☒ 維持 ☐ 削減	直営になるため、指定管理料の部分が再度事業ごとに予算が計上される。

H29年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H30年度の振り返り）	
H29年度の評価（課題）	H30年度を取組（評価、課題への対応）
図書館利用者数と貸出点数においては、前年度対比103～104％の実績を上げた。また、指定管理2年目となり、小学校へのブックバックの貸出や、小学生一日司書、ぬいぐるみのお泊まり会など、新たな企画を実施したことにより、イベントの開催において、利用者から評価を受けた。しかしながら、仕様書に謳っている常勤スタッフにおける司書率60％を達成することができなかった。司書率の達成については、継続的に指定管理者に強く指導した。	年度当初に、指定管理者総合評価シート「及び「指定管理者総合評価追加項目シート」により平成29年度実績に対する評価を実施した。司書率60％については、年度当初は達成されなかったが、6月1日に達成された。 5月8日に令和元年度からの中央図書館等の運営が市の直営になると公表されたことを受け、指定管理者が導入したサービスの精査を行うために、実績や利用者意見を基に案を作成し、図書館協議会に諮った上で方向性を決定した。また、運営のスムーズな移行を実現するため、指定管理者と定期的な引継ぎに関する打合せを全7回（7/27、8/29、9/11、11/13、12/21、1/25、3/8）実施した。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H29年度	H30年度	R01年度	目標値（R03）
蔵書数（点）	425, 097. 00	454, 596. 00	464, 647. 00	464, 000. 00	464, 000. 00
総貸出し数（点）	864, 539. 00	985, 864. 00	985, 254. 00	960, 000. 00	985, 000. 00
成果の動向（→その理由）					
☐ 向上 ☒ 横ばい ☐ 低下	利用者貸出点数（公民館図書室を含む全館合計）及び図書館の利用者数は横ばいであった。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
☐ 拡大 ☐ 縮小 ☒ 維持 ☐ 改善・効率化 ☐ 統合 ☐ 廃止・終了	令和元年度からの直営による運営は、平成30年度の経費で同等のサービスを提供することが前提であるため、現状維持とする。しかしながら、平成31年4月1日から1年間の予定で、中央公民館が改修工事により休館するため、中央公民館図書室も休室することになる。この点を鑑みると貸出利用者点数の減少が予測される。 学校教育改革プランを受け、市内の小・中学校、指導室と連携を図りながら学校図書館の充実のための支援を行う。				

コストの推移						
項目		H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R01年度予算	R02年度見込
事業費	計	189, 814	183, 836	187, 634	107, 220	128, 935
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	1	1	31, 641	30, 130	100
	一般財源	189, 813	183, 835	155, 993	77, 090	128, 835
正職員人工数（時間数）		3, 091. 00	2, 519. 00	3, 221. 00	0. 00	0. 00
正職員人件費		12, 673	10, 328	13, 448	0	0
トータルコスト		202, 487	194, 164	201, 082	107, 220	128, 935

平成30年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報					
事務事業名		図書館協議会開催事業		担当課	生涯学習課
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち		計画期間	平成 7年度～
	施策	生涯学習の推進		種別	法定事務
	基本事業	自主的なサークル活動の支援と学習機会・場の提供		市民協働	
予算科目コード		01-100405-07 単独	根拠法令・条例等	図書館法 守谷市図書館協議会設置条例	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
守谷市立図書館の適正な運営を図るため、平成7年度に設置した。	図書館の運営全般について、利用者目線での意見などを聴き、図書館サービスの向上につなげる。 会議開催時には、出席委員に報酬及び費用弁償を支払う。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
図書館の運営について、利用者及び関係団体の意見を伺い、より良い図書館運営に資する。	
（参考）基本事業の目指す姿	
市民が、生涯学習に自発的に参加できるよう、学習できる機会・場の提供に努める。	

事業の課題認識，改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点，現状分析，課題設定）	具体的内容とスケジュール
現在も協議会の意見を伺いたい内容については，随時会議で意見を聴取しており，今後も継続するよう努める。	平成31年1月23日 第4回図書館協議会開催 ・平成31年度運営方針（案）説明 平成31年2月20日 第5回図書館協議会開催 ・平成30年度実績報告（指定管理者から1月末までの報告） 平成31年5月下旬 第1回図書館協議会開催 ・平成30年度実績報告 平成31年7月中旬 第2回図書館協議会開催 ・平成30年度モニタリング結果報告 平成31年11月中旬 第3階図書館協議会開催 ・先進地視察
改善内容（課題解決に向けた解決策）	平成32年1月下旬 第4回図書館協議会開催 ・次年度の運営方針に反映させるべき事項の確認
特に課題はないと判断している。	平成32年2月中旬 第5回図書館協議会開催 ・平成33年度運営方針（案）説明
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐増加 ☒維持 ☐削減	平成31年4月から図書館の運営が指定管理から直営になることにより，運営に対する意見，評価をいただくために現状の会議開催数が必要である。

H29年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H30年度の振り返り）	
H29年度の評価（課題）	H30年度の取組（評価、課題への対応）
平成29年11月2日に教育委員会から図書館協議会を第三者機関と位置付け、「守谷市立図書館等の運営に対する評価について」及び「守谷市立図書館等の平成31年度からの運営体制について」の二つの諮問が提出された。諮問を受け、図書館協議会は全6回にわたる会議及び指定管理者訪問等を実施し、様々な根拠資料の分析とヒアリング結果を基に、平成30年2月15日に答申結果を教育委員会に提出した。	平成30年5月8日に、平成31年度からの図書館の運営は直営による運営とすることが公表されたことを受け、直営に向けた自治体の取組について意見を頂いた。主な内容は、指定管理者が導入したサービスの継続の可否について、また、平成31年度守谷中央図書館事業計画についてである。指定管理者が実施したお客さまアンケート結果や、日常的な利用者からの意見を考慮し、適切な意見を頂くことができた。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H29年度	H30年度	R01年度	目標値（R03）
図書館協議会委員数（人）	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00
会議開催数（回）	7.00	7.00	5.00	5.00	4.00
成果の動向（→その理由）					
☐ 向上 ☒ 横ばい ☐ 低下	利用者の代表として、様々な角度から図書館運営について意見を頂くことができた。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
☐ 拡大 ☐ 縮小 ☒ 維持 ☐ 改善・効率化 ☐ 統合 ☐ 廃止・終了	平成31年度から運営形態が変わるに当たり、今後も利用者の代表としての適性な意見を伺うために、平成30年度同様の会議開催を実施する必要がある。				

コストの推移						
項目		H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R01年度予算	R02年度見込
事業費	計	139	331	243	322	257
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	139	331	243	322	257
正職員人工数（時間数）		244.00	676.00	120.00	0.00	0.00
正職員人件費		1,000	2,772	501	0	0
トータルコスト		1,139	3,103	744	322	257

平成30年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報					
事務事業名		中央公民館改修事業		担当課	生涯学習課
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち		計画期間	平成29年度～令和元年度
	施策	生涯学習の推進		種別	任意の事務
	基本事業	自主的なサークル活動の支援と学習機会・場の提供		市民協働	
予算科目コード		01-100404-05 単独	根拠法令・条例等	守谷市立公民館の設置及び管理に関する条例	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
中央公民館の老朽化に伴い大規模改修が必要となった。	平成29年度 改修工事の実施設計発注済 平成30年度 改修工事内容の決定、入札、契約 令和元年度 改修工事着手（約1年間休館）
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
施設の長寿命化を図り、耐用年数後にも正常に施設が使用できる設備環境を整えることにより、利用者に安心・安全で快適な学びの場を提供する。	
（参考）基本事業の目指す姿	
市民が生涯学習に参加しやすい環境を提供する。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
2019.4から中央公民館が休館となる。	2019.4月移行については、中央公民館からサークルの移動。
改善内容(課題解決に向けた解決策)	
中央公民館定期利用サークルを他の公民館施設等に振り分けて活動を行ってもらう。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
■増加 □維持 □削減	改修工事のための費用10億8千万円

H29年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H30年度の振り返り）	
H29年度の評価（課題）	H30年度の実績（評価、課題への対応）
改修工事設計業務の契約締結 平成29年度、平成30年度の2ヵ年間の期間を設定した。	実施設計を完了させた上で、改修工事の入札及び契約締結、工事の着工に向けて取り組む。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H29年度	H30年度	R01年度	目標値（R03）
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
成果の動向（→その理由）					
■向上 □横ばい □低下					
今後の事業の方向性（→その理由）					
□拡大 □縮小 ■維持	□改善・効率化 □統合 □廃止・終了	躯体を残しながら建物の外部、内部、建具、空調設備、電気設備等の更新により機能改善を図る。令和2年度のリニューアルオープンに向けて施工管理を行う。			

コストの推移						
項目		H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R01年度予算	R02年度見込
事業費	計	0	0	337,278	689,982	0
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	291,000	575,000	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	0	0	46,278	114,982	0
正職員人工数（時間数）		0.00	0.00	779.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	0	3,252	0	0
トータルコスト		0	0	340,530	689,982	0